

令和6年度事業実績報告
社会福祉法人富士厚生会本部

令和6年度は、年度当初に計画をした、令和4年度から急激に高騰している、「物価」、「建材料費」、「人件費」を常に念頭に置きながら、各施設の財政状況を把握し安定した法人経営を目指して参りました。

理事長の陣頭指揮の元、昨年度と同様、施設長会議、経営会議を通じ、時には各施設を訪問しながら、特に事業費、事務費、人件費の支出に目を向け、各施設に節約や削減できるところがあれば、その都度、助言、指導を行い、支出の軽減に取り組みました。また収入にも目を向け、稼働率については意識をし、稼働率の低い事業所については、支出の取り組みと同じように、稼働率が上がるための助言、指導をしていきました。

介護保険制度、支援費制度ともに引き上げ改定であったものの、想像以上に高騰の波が押し寄せ、各施設にとっては、厳しい叱咤激励をせざるを得ない場面も多々ありましたが、各施設が工夫しながら、本部の助言、指導を受け入れてくれたこともあり、富士厚生会グループ全体で、約9400万円の利益を出すことができました。

職員の定着、人材確保をしていく取り組みに関しましては、介護職員処遇改善加算金を介護職員以外にも配分することで、介護職員とその他の職員の賃金格差が大きくならないようにし、全職員にバランスの取れた賃金改善ができました。また新規職員の採用が厳しくなっている現状から、初任給の提示を今までより約5%の上乗せするような形で提示するようになりました。

新型コロナウイルス等の感染症に関しては、持ち込まない・広げないを意識し再度職員教育を行い、最小限に抑えることができました。

今年度、法人内の施設で1件、虐待による行政処分を受けました。この問題を施設だけでの問題ととらえず、法人全体の問題としてとらえ法人本部が中心となり再発防止のための研修等、職員一人一人のレベルアップをして、富士厚生会の信頼を取り戻していきます。

特別養護老人ホーム 富士宮荘

令和6年度は、令和7年2月に入所利用者様による自死があり、施設内に大きな衝撃が起こりました。対応した職員においては精神的なダメージをかなり受けてしまいました。

富士宮警察署の刑事による現場検証が何度かあり、最終的に検察庁の検視官の指示による再確認が行われました。事件性については無いとのことでした。この件で3名の職員が長期療養となり、2名は退職、1名は職場復帰となっております。

入所待機者の減少がみられる中、入居検討委員会を年間に7回行い待機者の確保に努め出来るだけスムーズに入所していただけるように調整し、前年度よりも稼働率の向上が出来ました。

地域貢献事業において、上井出地区、白糸地区の地域行事の対応を行いました。

苦情は0件です。

年間稼働率 99.5% 平均介護度 4.02 平均年齢 83.42歳

年間の新規入所者は31名、退所者は32名です。 職員数60名 介護3, 看護師不足

ショートステイ萩の里

利用者の獲得を念頭において、営業活動に努めました。

登録人員は増加しましたが利用日数の大幅な増加には至らず、稼働率が低迷してしまいました。しかし年度終盤で稼働率が上向きになってきました。引き続きさらなる稼働率向上を目指していきます。

苦情が1件ありましたので再発防止に努めます。(コンビニ駐車場の件)

年間稼働率 55.6% 平均介護度 2.5
デイサービスセンターみどりの里
新規利用者増を最優先課題として取り組みましたが、年間を通して施設入所・長期入院・ショートステイの長期利用や逝去される方などで登録抹消等が多かったため、稼働率の向上に繋がりませんでした。10月の人事異動にて職員1名異動、営業日数変更を行った。
居宅介護支援事業所との連絡調整や利用者の詳細な情報提供を行い関係性が向上しましたので、次年度に向けて稼働率向上に結び付けていきたいと思います。
苦情につきましては、1件ありましたので対応しております。(市介護保険課、不適切な件)

年間稼働率 57.3% 平均介護度 1.6
居宅介護支援事業所のぞみ

令和6年度は勤務する職員の退職や傷病にて不安定な職員配置となり、その都度職員の体制について富士宮市福祉企画課へ相談へ行き対応してまいりました。特に主任介護支援専門員の配置に苦慮し年度内に配置ができない場合は、休止となる状況でしたが人事異動において配置がかない事業所が稼働できております。

職員の入れ替わりについては、その都度利用者・ご家族へ説明を行いましたが不安を持たせてしまいましたので、安心して相談できるように取り組んでいきます。

当期資金収支差額合計 16,629,569円

特別養護老人ホーム ネオライフとみざわ

令和6年度も、介護保険法及び老人福祉法等関係法令を遵守し、当法人の規定に準拠し事業を進めて参りました。

稼働率は、98.0% 前年より0.9ポイント減となりました。

入居者は重度介護の方が多く、平均介護度は4.35。

入居者の健康状態を素早く判断し、医師への連絡や受診を行う事で入院するケースを最小限にして来ました。

今年度、2件の虐待案件が発生し、行政処分を受けました。今後、地域の信頼を少しづつ取り戻すよう、研修等で職員個々のレベルアップをして事業を進めて参ります。

感染症は、新型コロナウイルスの大規模クラスターが発生しました。入所者15人、職員12人、計27人の罹患者が出ました。引き続き、感染予防に努めて参ります。

ショートステイネオライフとみざわ稼働率は、83.5% 前年より8.1ポイント増となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、ロングショート利用者の受入を積極的に行い稼働率のアップに努めて参りました。また、新規利用者は継続して確保できており、今後も地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を図り効率的な運営や送迎範囲を拡大し新規利用者の確保に取り組んでまいります。

デイサービスセンター菜の花の里稼働率は、44.8% 前年より2.5ポイント減となりました。

利用者からの要望を取り入れ、毎月の創作活動、行事などの活動・レクリエーション活動の充実を図り、家族からの要望に沿えるよう柔軟な受け入れを行ってきましたが、利用者の入院や入所・死亡等によりダウンしましたが、家族の要望をニーズととらえ、ニーズの実現に向けて努力しました。今後も引き続き各関係機関、居宅介護事業所と密に連携を図り稼働率向上と利用継続に繋がるよう営業方法も工夫をしながら営業活動を行っていきます。

ヘルパーステーションさつきヘルパーの稼働率は、月平均 307.9 件 前年より月 13.2 件増となりました。

居宅介護支援事業所ネオライフとみざわ居宅の稼働率は、月平均 70.0 件 前年より月 0.7 件減となりました。

当期資金収支差額合計 3,534,505 円

特別養護老人ホーム シャローム富士川

6 年度は入退居が 33 名、入院者が 34 名と例年よりも多い年度ではありましたが、できる限り早い対応を意識し、前年比 0.9 ポイント増の 98.4 % でした。

入居者、家族の支援として、新型コロナウイルスを含めた感染症の取り組みの中で、感染拡大防止対応を行いつつ、面会制限の緩和ができました。現在は 9 時～16 時の間で予約なしに居室面会が可能としてコロナ前と同様になっています。

職員の研修については、オンラインから集合型へ戻ったこともあり、積極的な参加に努め、知識と技術の向上を図りました。

防災については、当初予定していた地域との合同防災訓練が、地域の都合により中止になりました。他は計画されていた事業は全て実施できました。

苦情は 3 件でしたが、すべて解決しております。

短期入所生活介護（ショートステイ）は、41 名の新規利用者と入所の空床を利用したことにより前年比 2.8 ポイント増の 94.7 % でした。苦情 2 件でしたが、改善し解決しています。

通所介護にこにこホーム（デイサービス）です。土曜日利用者の減少やロングショート利用が増加したため前年比 1.9 ポイント減の 78.8 % となりました。苦情は 3 件ですが、解決しています。

居宅介護支援事業所につきましては、ケアマネ 2 名体制で月平均 90 件以上を達成しました。苦情 1 件でしたが、解決しています。

今後も地域や利用者、入居者、ご家族から信頼される運営に心がけてまいります。

当期資金収支差額合計は、11,103,824 円

地域密着型特別養護老人ホーム なかざと

令和 6 年度は、「Enjoy and Exciting」、「Brush up」をテーマとして運営をしてきました。

「Enjoy and Exciting」に関しては、季節行事の他に、ボランティアの受け入れ、ユニット行事とは別で、プチ旅行（数時間の外出）を企画するなどして、入居者、入居者とともに職員が少しでも楽しく、ワクワクするようなことやってきました。しかし、主に下半期は感染症が流行した時期もあり、面会や外出等を規制せざるを得なかったこともあります。そのような事情もあり、テーマとしていたことは思っていたほどの成果は上げられなかったと感じております。また身体が動かせる入居者に対して、少しでも毎日がメリハリをつけて健康的に生活をしていただけるように、毎朝、希望者には「スタンプラリー」と称して、事務所前にて、職員が一緒に体操を行う取り組みをしました。

「Brush up」に関しては、より質の高いサービスを提供できるように、見直しをしながら、委員会や研修を行いました。委員会については、事前資料の提出期限を決めるなどして、会議の時

には資料を読むところからのスタートではなく、議論の時間を長く、蜜に持てるようにしていきました。研修については、職員が実務で生かせるように、実に添った形の研修を多く取り入れて行うようにしました。その結果、職員ひとり一人の考える力やスキルが上がりました。

年間の稼働率につきましては、年間平均稼働率 98.4%と前年度比 0.9 ポイントマイナスとなつてしましましたが、これは入院者が延べ日数 127 日と前年度に比べると 87 日多かったことが一番の原因となっております。

認知症対応型通所介護、令和 6 年度は、「付加価値」をテーマとして運営をしてきました。ご利用者に継続利用していただくために、ご利用者、ご家族のニーズにできるだけ応える努力をしてきました。例を挙げると、送迎時間の指定があればそれに応えたり、曜日の変更等で空きなどがあれば柔軟に対応をさせていただく等させていただきました。

また、レクレーションや創作活動以外に、足湯を生かし、ご利用者から希望があれば、午後は足湯に浸かっていただくことなども実施いたしました。

体調不良やお亡くなりになった方が重なった時期もあり、令和 6 年 8 月～11 月までは稼働率が 70%代の時もありましたが、テーマを忘れず、営業努力をしたこともあり、年間平均稼働率は 83.7%と前年度対比を 10.5 ポイント上回ることができました。

なかざと生きがい俱楽部につきましては、令和 6 年度は、「健康維持」をテーマに活動をさせていただきました。特に脳トレや体操も今まで行ってきたことに加え、ゲームをやりながらの脳トレや歌などを取り入れながら、大きく発声をすることを取り入れていきました。

また、なかざとにある畠にて、園芸を行い、土いじりをしながら、いろんな人と会話を楽しむことなども行い、ご利用者がいつまでも「健康維持」をして、継続して通っていただける工夫をしました。

お亡くなりになつたり、入院をしてそのまま利用が終了となつた方が 10 名いる年度となつてしましましたが、チラシなどを地域に配るなど営業をして、新規の方が 10 名入った年度となりました。

当期資金収支差額合計 2, 391, 830 円

地域密着型特別養護老人ホーム 松野の里

入退居 13 名、入院者 15 名と多く、前年比 2.3 ポイント減の 97.3 %となりました。

施設の取り組みとして、新たに管理栄養士を配置し、栄養状態の維持及び改善に努め、栄養ケアマネジメント強化加算の算定を行いました。

また、協力歯科による口腔衛生管理、技術的助言及び指導などを実施し、口腔衛生管理体制の強化を図りました。

新型コロナウイルスによる施設内感染の発生はありました、予防や拡大防止対策により、面会規制の緩和に繋げ、現在は居室での面会が可能になっています。その中で計画された事業は全て実施したほか、新たに入居者と小型犬がふれあうアニマルセラピーを実施し、入居者からは大変好評でした。

生きがい・健康づくりデイは、交通安全協会富士支部指導員による高齢者向け交通安全教室や健康体操などを実施した結果、前年比、延べ人数 187 人増となりました。

地域交流センターみんなの家は、料理教室や墨絵教室、リフレクソロジーなどの自主事業を強化したことにより、延べ利用者数 856 人増となりました。

苦情 1 件ありましたが、早急に対応し解決しています。

今後も地域密着型の特徴を活かし、地域や家族、入居者が安心できる施設を継続してまいりま

す。

当期資金収支差額合計は、3,288,563円

地域密着型特別養護老人ホーム草塩おんせん

特養稼働率98.7%

介護度については、町から一人では生活できないので特例入所の依頼があり当施設も待機者がなくベッドが空いていたためやむを得ず特例入所で介護度1の独居老人2名入所させ、前年度よりは上がっていますが平均介護度が3.67%でした。

デイ稼働率は豪雨により1日・積雪により2日臨時休業と県道崩落による通行止めにより4集落の利用者が10日間利用できることもあり43.4%になりました。

昨年の理事会に於いて6年度事業計画の説明をし、重点項目及び課題として2点あげました。

初めに感染症について、令和4年度に新型コロナ施設半数のクラスターになりました。ここ2年は職員個々の予防はもちろんですが、感染した場合、迅速かつ適切な対応をとり感染を最小限、単発的な感染で抑えることができました。

次に職員の職場環境整備と人材確保です。

特養草塩おんせんの現状は、

7月より夜間職員配置加算 9ヶ月金額にして3,721,860円

1月より看護体制加算Ⅱ 3ヶ月金額にして620,310円、職員数及び時間数が足りなく加算が取れない状況でした。

看護職員骨折により長期離脱があり最終的には退職しましたが2月・3月ネオライフからの看護職の出向と本体の看護職員兼務で何とか配置基準をクリアーしましたが厳しい状況でした。

各方面に求人を出していますが、立地面・交通面等条件の悪い当施設に人材の確保が最重点課題でした。

先の理事会の席、職員不足、職員確保の要望について討論していただきありがとうございました。4月から体制が変わりすぐに成果は出ないと思いますがいい方向に向けばと思います。

当期資金ですが、早川町からのデイサービスセンターはやかわ指定管理料の中から毎年2,000,000円の請負補助という形でいただいている。合計で10,916,497円あり、町に説明し了解を得て本体に繰り入れました。

内訳は備品等購入積立資産 5,000,000円

施設設備整備積立資産 5,916,497円定期積立をした結果。

当期資金収支差額合計は2,631,217円

特別養護老人ホーム ソレイユ甲府

ソレイユ甲府は、施設入所(80床)・短期入所(10床)・通所(定員20名)・居宅介護支援事業所の4つの事業を運営しております。

4つの事業とも介護保険法、関係法令並びに法人の規程を遵守し、施設運営に取り組みました。

施設入所の年間稼働率については、97.5%で前年比+0.08ポイントとなりましたが、主な要因としては、1年を通して入院されたケースが多く稼働率の低下がみられました。

入居25件、退居26件あり、平均介護度は、3.9となりました。

平均年齢は、男性87.31歳、女性91.43歳、全体で90.63歳でした。

短期入所につきましては、83.4%で前年比+2.1ポイントとなりました。新規利用者や

緊急受け入れや空室の情報提供の結果増加しました。

通所については、48.46%で前年比+14.1ポイントとなりました。

周辺市町村の居宅介護支援事業所への営業、並びに新規利用者の積極的な受け入れを行った結果、稼働率アップに繋がりました。

居宅介護支援事業所につきましては、介護給付管理件数は446件で前年度より40件増加、予防給付管理件数63件で前年度より26件増となりました。

新規利用者18名、修了者14名（死亡6名・他事業所2名・自施設入居4名・他施設入居2名）となりました。また、介護支援専門員主催の研修へも積極的に参加しケアマネージャーとしての質の向上へ努めました。

施設の苦情につきましては、破れたズボンを説明されず返却された内容、入居待機者に注意事項や確認事項を説明すると、初めから入居させるつもりがないのでは？と、信頼関係が難しくご家族より申し込みを取り下げられた内容、ショートステイでは、外出時の注意事項がご家族に説明できておらず、外出後、居室で感染症対応することを伝えると、聞かされていなかった、事前に教えて欲しかったという内容、デイサービスでは、リフト浴に入った際お湯の温度が熱い、冷ますために水を入れると冷たいと言われ、担当した職員の拒否・対応についての指摘を受けた内容、施設全体で周知し再発防止につとめていきます。申し訳ありませんでした。

近年、光熱水費や物価高騰となり、施設を圧迫されておりますが、節約を心がけて、安定した経営・運営がしていけるように努力します。

当期資金収支差額9,938,463円

障害者支援施設 三和荘

令和6年度は報酬改定がございました。算定要件が一部緩和された加算の取得、定員超過の受け入れにより稼働率及び収益の向上ができました。

前年比稼働率は施設入所支援利用者+1.3%、短期入所+8.5%でした。

支援を必要としている人たちのニーズに応え、研修・会議・行事など当初計画どおりの運営をいたしました。

日常生活においては利用者との対話時間を活用して積極的に利用者の声を聞き取り、個別支援計画書に反映し、事業実施しました。

虐待防止の取り組みについては、不適切な支援とならないよう内部研修と自己評価の隔月実施によって改善に取り組み、組織全体の意識づけを図りました。

今年度は入退所5名でした。日々の支援の中で体調の変化にいち早く気付き、ケアしながら事業所での生活を楽しんでいただけるよう努めました。

在宅者支援につきましては、家族、利用者の高齢化が進み、緊急時の受け入れ態勢を整え、対応いたしました。山梨県からの相談が増加しました。

今後も緊急時の受け入れ、緊急にさせない準備に取り組んでまいります。

建物も築46年を超えて、修繕費の増加が見込まれますが丁寧な設備管理を今後も行い、災害時にも対応できる安心した施設運営を目指してまいります。

当期資金収支差額合計 5,330,567円

障害者支援施設 くぬぎの里

今年度は報酬改定が単年であり、施設退所者、入院者も例年に比べ少なく、収益に関していい数字を残すことができた。

事業については日常を取り戻すということから外出行事を行い、田子の浦港や富士川楽座へ外出した。

東海北陸研修大会の静岡県大会当番ということもあり、運営に三和荘とともに携わる。

令和6年10月17日から18日にグランシップにて無事に終了。

研究発表では、くぬぎの里はヒアリハット改善につながった事、三和荘は情報共有と統べされた支援について発表した。

静岡県の実地指導監査は5年ぶりに受けたが、改善指導、助言事項は無し。

在宅関係はショートステイ40%、デイサービス40%と共に稼働率が低いので改善をしています。

相談事業所は1,900件の相談があり、富士市より初めて実地指導監査がありました。

こちらも指導事項はありませんでした。

当期資金収支差額合計 11,696,259円

障害者支援施設 きぼうの里

それでは入所を中心にお伝えします。令和6年度はきぼうの里も開設して25年となり、開設25周年記念祭を開催しました。コロナ禍以降前年度までは、ご家族様が参加する行事が行われていなかったので、利用者様だけではなくご家族様にも楽しんでいただくことができました。

入退所が1件、入院は7件あり、ご家族様との外出、外泊等も感染症の流行状況を見ながら対応させてもらいましたが、稼働率は98.5%となりました。意思決定支援を意識しながら、個別支援計画書の作成、見直し等に取り組み、利用者様の支援を行いました。利用者様も年々高齢化しているので行事、日中活動等で身体を動かすレクリエーション等の訓練的要素を積極的に取り入れました。

感染症対策、事故防止、虐待防止等については、委員会を中心に会議、内部研修等を行い、外部研修にも参加。防災に関しては、BCP事業継続計画を意識した訓練、研修等を行いました。

地域社会との関わりについては、大淵福祉秋まつり、大淵地区の清掃等へ参加し、コロナ禍以降、地域交流も行えるようになりました。

入所で苦情が1件ありましたが、速やかな対応をしています。

在宅事業に関しては、感染症の影響もありましたが、短期入所87.8%、通所の生活介護事業83%、地域活動支援センター57.5%の稼働率となりました。定期的に利用される利用者様に加え、新規の利用者様の受け入れ、緊急対応等も行いました。利用者様が安心して落ち着いた時間を過ごしていただくことで、帰宅後のご家族様への負担軽減にも繋がるよう、つとめました。

その他、障害者自立支援協議会等との活動を中心に各市町、相談支援事業所、関係機関等との連携も大切にし、稼働率向上につとめました。

当期資金収支差額合計は21,966,698円

障がい者福祉センター小泉

令和5年度は6年目の運営だった。小泉では次の4つの事業を運営した。

生活介護は、1日定員20名で障がい者の日中活動、日中の居場所として安全に快適に利用していただけるように、個別支援・障害特性に沿った支援を大切に運営した。

稼働率94.1%、前年度比0.3ポイント増。

放課後等デイサービスは、1日定員10名で小1~高3の障害児の学校と家庭のつなぎの場とし

て、療育の視点を持った支援を大切に運営した。

また、1月から要望の多かった帰りの送迎サービスを実施、それによる新規利用の増が見込めた。

稼働率52.5%、前年度比5.4ポイント増。

相談支援事業は、障害者総合支援法の指定事業所としての特定相談支援と富士宮市委託の相談支援の2つを運営した。相談内容は複雑多岐で専門性も必要なため関係機関との連携やスキルアップを図った。委託相談3,719件、特定相談556件。

地域生活支援拠点事業は、障がい児者の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、関係機関が協力して本人やその家族を地域全体で支える仕組みとして、令和2年4月より富士宮市からコーディネーターとして委託を受け4年目。3月末時点で緊急時対応名簿登録者40名。

事業所全体の取り組みとしては、SNSの発信や折込チラシの配布、事業所見学会などを行い、事業所紹介や新規利用の案内をすすめました。あわせて定期的に関係機関を訪問し、運営状況や空き情報などの情報を伝え、利用者獲得に向けた顔の見える関係づくりに取り組みました。

当期資金収支差額合計 302,455円

養護老人ホーム 長生園

安心・安全な施設運営を心掛け、入所されている皆さんの支援をしてきました。

この実績が認められ、平成18年度には、長生園の管理運営について、富士宮市の指定管理者に指定され、議会で承認されました。本年4月からは、新たな5年間の指定を受けています。

長生園の入所者は、市が判定委員会を開催して決定します。指定管理者の厚生会は、市から毎月委託料をいただいて、施設を運営しています。現在、定員50人に対して、入所者は50人、入所率は100%です。養護老人ホームは、県内に24施設ありますが、入所率100%の施設は、長生園だけになりました。静岡県の養護老人ホームの平均入所率は75.9%です。市からいただいたいる委託料は、入所率にほぼ比例します。安定した経営のためにも、今後、いっそう市との連携を密にして、入所率100%を維持してまいります。尚、長生園は病気などで入院する人があった場合、その空いた部屋を別の人々に貸すことはできませんので、その稼働率は低下することになります。なお、長生園は、富士宮市が行う公共施設の長寿命化工事の対象になっています。

令和5年度には、約1億円かけて、屋根や外壁、浄化設備、給湯設備を修繕していただきました。令和6年度も引き続き、老朽箇所を修繕していただきます。

当期資金収支差額合計 90,532円

富士市富士南部地域包括支援センター

令和5年度は職員配置人数の変更ありませんでした。センター内会議を月2回開催し、個別ケースの把握や対応、業務についての計画と方向性や進捗等を協議し、情報の共有に努めました。

総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント事業、介護予防ケアマネジメントについては、行政、圏域内の事業所、地域住民と連携を図り実施しました。一般高齢者を対象に包括主催の介護予防教室や脳の健康教室を開催しました。在宅医療・介護予防連携推進事業は市の事業に参加協力しました。認知症総合支援事業は、医療機関と連携を図りました。生活支援体制整備事業は、地域の関係機関との連携に努めました。

今後も富士市や関係機関との連携を図り、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるように、地域包括ケアの推進に努めます。

当期資金収支差額合計 2,730,856円

富士市富士川地域包括支援センター

・富士市より委託を受けて、13年目になります。担当地域は富士川・松野地区、一番高齢化率が高く面積も広い地域になります。

・職員配置は専門職4名、事務員1名にて運営、今年度は地域ケア会議を各地区で開催しました。

・包括的継続的ケアマネジメントに関しましては、困難ケースなどには、同行訪問や個別ケア会議を開催、情報共有や状態改善に努めてまいりました。また、介護支援専門員対象に質の向上を図る研修を年3回開催しました。

・認知症サポーター養成講座も「するが看護専門学校」にて開催、生徒さんに改めて勉強になりましたと喜んでいただけました。

・住民主体の通いの場の立ち上げには、地域の皆様にリーダーになってもらい「ご近所さんの運動教室」、「サロン」等に参加して頂くことでフレイル予防に力を入れております。

・緊急性のある相談には、訪問や他機関と連携するなど迅速に対応しております。

当期資金収支差額合計 43,664円

富士宮市富士根地域包括支援センター事業報告

運営開始から6年が経過。新規相談や困難ケースの対応など、その都度包括内で情報を共有し協力して支援を行う事が出来ています。

昨年の新規相談件数は396件。多問題や困難なケースが多いため、ケアマネからの相談が増加。随時個別相談や質問等対応し、必要性に応じて同行訪問やケア会議の開催等も行っています。

虐待の相談も増加傾向にある為昨年は介護支援専門員に向けた虐待の研修を行いました。毎月、圏域のケアマネと社協や地域の人たちを集め打ち合わせ会を開催し情報の共有や意見交換を行っています。

認知症施策の活動では打ち放しゴルフの会にて昨年は認知症の方とショートコースをまわりました。今年は高校や中学のゴルフ部との交流も計画しています。

今後も富士宮市や関係機関と連携を図り、地域包括ケアの推進に努めて行きます。

当期資金収支差額合計 557,886円